

# 《開幕》

## 未来と芸術展：AI、ロボット、都市、生命 —人は明日どう生きるのか

2019年11月19日(火)ー2020年3月29日(日) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

**豊かさとは何か、人間とは何か、生命とは何か  
美術の領域を越えたプロジェクトや作品100点超を一挙公開！**

森美術館は、2019年11月19日(火)から2020年3月29日(日)まで、「未来と芸術展：AI、ロボット、都市、生命—人は明日どう生きるのか」を開催します。

テクノロジーの発達は、いま、私たちの生活のさまざまな側面に大きな影響を与えようとしています。近い将来、人間は多くの判断をAI(人工知能)に任せるようになり、AIが人間の知能を超え、私たちの社会や生活に急激な変化をもたらす「シンギュラリティ」が到来すると言われていています。また、ブロックチェーン技術は、社会システムに新たな信用と価値を作り出し、多様なバイオ技術は、食や医学、そして環境に多大な影響を与えることになるでしょう。私たち人間が身体機能を拡張させ、いま以上に長寿を享受する時代もそう遠くない話なのかもしれません。そうした急激な変化をもたらす未来は決して明るいものだけではないかもしれませんが、私たちは、少なくとも20-30年後の未来のビジョンについて考えることが必要なのではないでしょうか。それは同時に、豊かさとは何か、人間とは何か、生命とは何かという根源的な問いにもつながるのです。

本展は、「都市の新たな可能性」、「ネオ・メタボリズム建築へ」、「ライフスタイルとデザインの革新」、「身体

の拡張と倫理」、「変容する社会と人間」の5つのセクションで構成し、100点を超えるプロジェクトや作品を紹介します。AI、バイオ技術、ロボット工学、AR(拡張現実)など最先端のテクノロジーとその影響を受けて生まれたアート、デザイン、建築を通して、近未来の都市、環境問題からライフスタイル、そして社会や人間のあり方をみなさんと一緒に考える展覧会です。



エコ・ロジック・スタジオ  
《H.O.R.T.U.S. XL アスタキサンチン g》  
2019年  
© NAARO

**プレスリリース** お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 津原、藤本、田ヶ谷、伊藤  
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

**出展アーティスト・プロジェクト** ※アーティストの姓、プロジェクト名のアルファベット順

会田 誠	MADアーキテクト
メモ・アクテン	丸山典宏、升森敦士、池上高志、小川浩平、石黒 浩、
アリババグループ グリーティングチーム	ジュスティーン・エマール
ANOTHER FARM	アヒム・メンゲス／
Archiphilia プロジェクト・チーム(竹中工務店)	コンピューショナルデザイン&建設研究所
ガイ・ベン=アリ	森村泰昌
ビャルケ・インゲルス・グループ	諸星大二郎
ザカリー・カネパリ&ドレア・クーパー	MX3D&ヨリス・ラーマン・ラボ
オロン・カツ&イオナ・ズール	中里唯馬
ダン・K・チェン	ニュー・テリトリーズ／フランソワ・ロッシュ
マチュー・ケルビーニ	ネクスト・ネイチャー・ネットワーク
セバスチャン・コックス&ニセラ・イヴァノヴァ	Nissan Intelligent Mobility × Artプロジェクト
サイモン・デニー	OPEN MEALS
エコ・ロジック・スタジオ	アウチ
遠藤 謙	ネリ・オックスマン&ザ・メディエイテッド・マター・グループ
エンタテインメントロボット aibo	パトリシア・ピッチニーニ
2025年大阪・関西万博誘致計画案	ポメロイ・スタジオ
フォスター+パートナーズ	ダーン・ローズガールデ
ヴァンサン・フルニエ	ディムート・シュトレーベ
映画にみる未来都市(五十嵐太郎)	タクトプロジェクト
グラマツィオ・コーラー・アーキテクト	手塚治虫
アギ・ヘインズ	ザ・リビング／デイビッド・ベンジャミン
ミハエル・ハンスマイヤー	ザ・ワイ・ファクトリー／デルフト工科大学
長谷川 愛	パトリック・トレセ
ハッセル・スタジオ+EOC	マイク・タイカ
ヒュー・ハー	ヴァンサン・カレポー・アルシテクチュール
ビャルケ・インゲルス&ヤコブ・ランゲ	ウィメンズ・テクノロジー協会(Wotech)
エイミー・カール	WOHA
クラレンバーク&ドロス	XTUアーキテクト
ヘレン・ノウルズ	やくしまるえつこ
エレナ・ノックス	山梨知彦+Loose Interfaceプロジェクト・チーム(日建設計)
リー・シャン(李山)	YAP
LOVOT	
ラファエル・ロサノ=ヘメル&クシュシトフ・ウディチコ	

**プレスリリース** お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 津原、藤本、田ヶ谷、伊藤  
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

## 開催概要

**展覧会名:**「未来と芸術展：AI、ロボット、都市、生命—人は明日どう生きるのか」

**主催:** 森美術館、NHK

**後援:** 在日スイス大使館

**助成:** アダム・ミツケヴィッチ・インスティテュート / culture.pl、

オーストラリア大使館、スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団、

グレートブリテン・ササカワ財団

**協賛:** 株式会社大林組、デルタ電子株式会社、忠泰集團(台湾)、MAIN、

日本MGMリゾート、タイ・ビバレッジ、三建設備工業株式会社、株式会社ミクシィ、

IHI運搬機械株式会社、株式会社久米設計、日本ピーマック株式会社、

日本電信電話株式会社、アマノ株式会社、新菱冷熱工業株式会社

**協力:** 全日本空輸株式会社、シャンパーニュ ポメリー

**制作協力:** 株式会社竹中工務店、株式会社日建設計、日産自動車株式会社、

GE Healthcare Life Sciences、アストロデザイン株式会社

**企画:** 南條史生(森美術館館長)、近藤健一(森美術館キュレーター)、

徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)、

オナー・ハーガー(アートサイエンス・ミュージアム館長、シンガポール)

**企画協力:** SymbioticA(西オーストラリア大学)、一般財団法人 森記念財団

**会期:** 2019年11月19日(火)–2020年3月29日(日)

**会場:** 森美術館(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階)

**開館時間:** 10:00-22:00(火曜日のみ17:00まで)

\*ただし11/19(火)、12/31(火)、2/11(火・祝)は22:00まで \*入館は閉館時間の30分前まで \*会期中無休

**入館料:** 一般1,800円、学生(高校・大学生)1,200円、子供(4歳–中学生)600円、シニア(65歳以上)1,500円

\*表示料に消費税込 \*本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可(スカイデッキを除く)

\*スカイデッキへは別途料金がかかります

**一般のお問い合わせ:** Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル) 森美術館ウェブサイト [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum)



最新のプレス画像は、こちらの URL より申請、ダウンロードいただけます。

<https://bit.ly/2TLpLFM>



ビャルケ・インゲルス&ヤコブ・ラング  
《球体》  
2018年  
撮影: Michael Filippoff

## プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 津原、藤本、田ヶ谷、伊藤

Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: [mam-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:mam-pr@kyodo-pr.co.jp)

## 展覧会の特徴

### 1. これからのライフスタイルや近未来の人間像を考察するための展覧会

最先端のテクノロジーにより大きく変化し得る私たちの近未来について考察します。AIやロボット技術により、私たち人間は労働から解放され、自由を謳歌するバラ色の未来を想像することもできますが、その一方で、人間がそれらのテクノロジーに支配され、隷属する未来像を提示し警鐘を鳴らす言説も存在します。本展では、さまざまな未来像を通して、どのような未来を作るべきなのか、みなさんと一緒に考えます。

### 2. 現代美術だけじゃない！ジャンル横断型のテーマ展

森美術館では、これまでに「医学と芸術展」(2009-2010年)、「宇宙と芸術展」(2016-2017年)といった現代美術と歴史的・科学的資料を組み合わせたユニークなテーマ展を企画してきました。本展では、その領域をさらに広げ、現代美術のみならず、都市論や建築、デザインやプロダクト・イノベーション、バイオアートから映画、漫画まで、異色の展示物で構成します。

### 3. 近未来の生活をイメージしたコーナーが登場

展示室内に近未来の生活をイメージしたコーナーを設け、私たちにとって身近な衣服や家具、照明や食物など、衣食住に関する作品やプロダクトを展示します。そう遠くない未来に私たちが暮らしを共にするかもしれない、利便性を追求しつつも環境を考慮した、想像力を刺激するアイテムやシステムを一足先に体験することができます。

### 4. アートの実験室「バイオ・アトリエ」を設置！

アーティストたちはバイオ技術を使い、アートの主題や表現をさらに拡張しようとしています。彼らの作品を集めた実験室のようなアトリエが展示室内に登場し、ゴッホが自分で切り落としたとされる左耳を現代のバイオ技術で再現した作品などを展示します。

### 5. 2020年に向けて、今日的でグローバルな問題提起を行い文化交流、意見交換のプラットフォームとなる展覧会

2020年を目前に、国内外のヒト・モノの移動は加速し、私たちはより国際的な視野から日本を見つめ直す必要に迫られています。本展は、世界各地の建築家、デザイナー、アーティスト、研究者が問いかける都市のありかた、環境問題、高齢化社会やさまざまな分野で進む自動化など、今日私たちが直面する事象、そしてそれに伴う未来の課題を提示し、議論する場です。

### 6. AIとのコラボレーションにより、本展のタイトルを決定

今回森美術館は、IBMが開発したAI(人工知能)「IBM Watson」との協働により本展覧会タイトルを決定しました。AIによって生成された15,000を超える候補から選ばれたタイトルが「未来と芸術展：AI、ロボット、都市、生命——人は明日どう生きるのか」です。

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 津原、藤本、田ヶ谷、伊藤  
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp



## 展覧会の構成：5つのセクション

### セクション1 都市の新たな可能性

人類が築く新たな都市は、砂漠や海上、空中へと広がりつつあります。それらの都市は、1960年代に日本の若手建築家が構想したメタボリズム\*の再来を思わせます。その多くは当時の技術では実現することができませんでしたが、今日では、情報技術やバイオ技術の発達により、環境に負荷をかけず持続可能な、真のメタボリズム都市が実現しつつあります。本セクションでは、最先端の都市計画や、アーティスト、建築家が描くユニークな都市像を写真や映像、模型などを通して紹介します。

\*メタボリズム：1960年代に黒川紀章、菊竹清訓、槇文彦、栄久庵憲司らが展開した日本独自の建築運動および理論。「新陳代謝」を意味する用語で、生命が成長、変化を繰り返すように、建築や都市も有機的にデザインされるべきであるという理念に基づく。

### セクション2 ネオ・メタボリズム建築へ

環境にやさしい有機的な建材の開発、3Dプリンター、ドローン、ロボティクスに代表される先端テクノロジーを駆使した新工法など、今日の建築の最新の動向を紹介します。それらによって実現する、自然と共生し、持続可能で可変的、柔軟に新陳代謝する建築は、新たなメタボリズム＝ネオ・メタボリズムの可能性を示唆しているかのようです。

### セクション3 ライフスタイルとデザインの革新

技術の革新は、私たちの衣食住のあり方を着実に変えています。コンピューターによるモデリングや3Dプリンターの登場はデザインの歴史を大きく刷新し、人工食材の開発は、人口増加や食料不足など地球規模の問題に対する解決方法のひとつとされています。本セクションでは、最先端のテクノロジーや斬新なコンセプトから誕生するデザインやプロダクトに着眼し、新しいライフスタイルの可能性について考察します。



ビャルケ・インゲルス・グループ  
《オーシャンクス・シティ》  
2019年



WOHA  
《オアシア・ホテル・ダウンタウン》  
2016年  
撮影：Patrick Bingham-Hall



ヴァンサン・フルニエ  
《ルームB #6[バル]スペイン、バルセロナ》 2010年

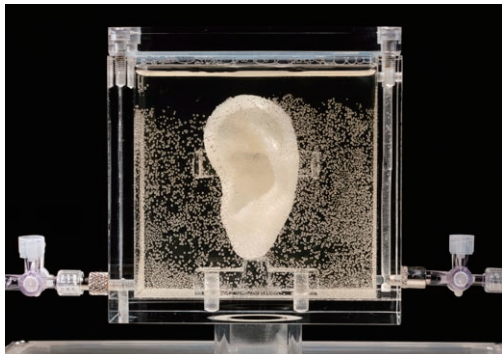


エイミー・カール  
《インターナル・コレクション》  
2016-2017年

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 津原、藤本、田ヶ谷、伊藤  
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

**セクション4 身体の拡張と倫理**

ロボット工学とバイオ技術の進歩は人間の能力を高め、不治の病を克服することを可能にしつつあります。それは素晴らしいことですが、一方で、私たち人間が自身の身体をどこまで拡張、変容させて良いのか、という倫理上の問いも浮上しています。本セクションでは、人間にとって最も大きな関心の対象である身体に焦点を当てます。



ディムト・シュトレーベ  
《シュガーベイブ》  
2014年-



アギ・ヘインズ  
《体温調整皮膚形成手術》(「変容」シリーズより)  
2013年

**セクション5 変容する社会と人間**

テクノロジーの発達に伴う新しい価値観は、これまで当たり前とされてきた人間像や社会像を大きく覆します。例えば、人間がロボットに看取られる時代や、3人以上の親の遺伝子を継ぐ子どもを「共有」する未来が訪れるかもしれません。本展最後のセクションでは、「人間」や「生命」、「幸福」の定義の再考を促し、私たちがよりよい未来に向かうためにどうすべきかを問いかけます。



長谷川 愛 《シェアード・ベイビー》 2011年



手塚治虫  
《火の鳥 未来編》  
1967-1968年  
©手塚プロダクション



アウチ  
《データモノリス》  
2018年



ザカリー・カネバリ&ドレア・クーバー 《ザ・ドッグ》 2015年

**プレスリリース** お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 津原、藤本、田ヶ谷、伊藤  
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

## ?! 展覧会関連プログラム

### ■ INNOVATIVE CITY FORUM 2019 Future and the Arts Session 「人は明日どう生きるのか」 ※日英同時通訳付

「都市とライフスタイルの未来を描く」をテーマとした INNOVATIVE CITY FORUM。今年の本セッションでは、「未来と芸術展」出展アーティストや建築家、各界の有識者を交え、多角的に「人は明日どう生きるのか」を議論します。

**出演:** 会田 誠、サイモン・デニー、ミハエル・ハンスマイヤー、長谷川 愛、エイミー・カール、ディムート・シュトレーベ、マイク・タイカ、豊田啓介(以上、「未来と芸術展」出展アーティスト)、南條史生(森美術館館長)ほか多数

**日時:** 2019年11月19日(火) 13:30-17:30

**会場:** アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階) **料金:** 5,000円

**詳細:** INNOVATIVE CITY FORUM ウェブサイト [icf.academyhills.com](http://icf.academyhills.com)

**お申し込み:** 受付は終了しました

### ■ パネル・ディスカッション「未来と芸術」 ※日英同時通訳・手話同時通訳付

アーティストたちはどのように作品を制作しているのか。それぞれの事例を通して見えてくる「未来と芸術」について、アーティスト本人や専門家が語り合います。

**出演:** 第1部: 赤坂亮太(国立研究開発法人 産業技術総合研究所 特別研究員)、池上高志(「未来と芸術展」出展アーティスト、東京大学教授)、エレナ・ノックス(「未来と芸術展」出展アーティスト)

**モデレーター:** 近藤健一(森美術館キュレーター)

第2部: アギ・ヘインズ(「未来と芸術展」出展アーティスト)、久保田晃弘(多摩美術大学教授、アーティスト)、

福島真人(文化人類学者、東京大学教授)

**モデレーター:** 徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)

**日時:** 2020年1月13日(月・祝) 14:00-17:30 (受付開始: 13:30)

**会場:** アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階) **定員:** 150名(要予約) **料金:** 1,000円

**お申し込み:** 森美術館ウェブサイト [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum)

## まちと美術館のプログラム

### 「アート・キャンプ for under 22 Vol. 4: 美術館で未来について考える」 ※日本語のみ

#### 「第1回: 美術館でバイオラボ体験!?!」(全2日)

森ビルと森美術館は、世界各地のアーティストとコラボレーションし、美術館や街のなかでさまざまなプログラムを実施してきました。2018年よりスタートした「アート・キャンプ」は、15歳から22歳の若い世代を対象とし、学校教育のような「教える」「教えられる」の関係とは異なる環境で、美術館やヒルズの街全体をキャンパスに、アーティストやキュレーターと一緒に「現代アート」について語りあうプログラムです。学校や家庭など身の回りで起こっていることと歴史上の出来事、現在世界で起こっている社会的、政治的、文化的な事象との関連性について対話を通して考えることで、現代アートの楽しさを体験します。

「アート・キャンプ for under 22 Vol. 4: 美術館で未来について考える」の第1回目として、「美術館でバイオラボ体験!?!」と題した2日間のプログラムを開催します。1日目は、多摩美術大学教授でアーティストの久保田晃弘氏と、「未来と芸術展」展示室内に設けた「バイオ・アトリエ」にて植物細胞(カルス)の培養を実際に体験します。2日目は、写真家の小山泰介氏と培養した細胞を被写体に撮影を行い、肉眼では見えない「風景」をとらえて写真作品として表現します。普段とはちがう経験と日常生活とを対比させることからアートの可能性を考えます。

**プレスリリース** お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 津原、藤本、田ヶ谷、伊藤  
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: [mam-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:mam-pr@kyodo-pr.co.jp)



**出演:** 久保田晃弘(多摩美術大学教授、アーティスト)、小山泰介(写真家)、徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)

**第1回日程(全2日、要両日参加):** DAY1: 2020年2月1日(土)10:30-17:00

DAY2: 2020年2月29日(土)11:00-16:00

**会場:** 森美術館展示室内、森美術館オーデトリウム

**対象:** 15歳~22歳 **定員:** 15名(要予約・抽選)

**料金:** 2,000円(2日通し料金、「未来と芸術展」チケット料金を含む)

**お申し込み:** 森美術館ウェブサイト [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum)

※第2回実施についての詳細は後日、森美術館ウェブサイトに掲載します。

## ■ ギャラリートーク ※日本語、中国語

展示室内でツアー形式のトークを行います。

**第1回 中国語によるギャラリートーク** ※中国語のみ

**日時:** 2019年12月11日(水)19:00-20:00 **ガイド:** ヴァージニア・リウ(森美術館インターン)

**第2回 キュレーターによるギャラリートーク** ※日本語のみ

**日時:** 2019年12月18日(水)19:00-20:30 **ガイド:** 近藤健一(森美術館キュレーター)

**第3回 キュレーターによるギャラリートーク** ※日本語のみ

**日時:** 2020年2月26日(水)19:00-20:30 **ガイド:** 徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)

**第4回 ラーニング・キュレーターによるギャラリートーク** ※日本語のみ

**日時:** 2020年3月4日(水)14:00-15:00 **ガイド:** 白木栄世(森美術館アソシエイト・ラーニング・キュレーター)

**会場:** 森美術館展示室内 **定員:** 各回30名 **料金:** 無料(ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です)

**お申し込み:** 不要(当日先着順、展覧会場入口にお集まりください)

## ■ おやこでアート ファミリーアワー

お子さま(0~6歳)と一緒に、森美術館へ出かけませんか? 開館前の美術館を貸し切り、小さなお子さまと安心して鑑賞いただけます。現在妊娠中のプレママとご家族もぜひご参加ください。ご家族との週末のお楽しみに、子どもたちとの交流に、子育ての情報交換に、「未来と芸術展」を自由にお楽しみください。

**日時:** 第1回: 2020年1月25日(土) 9:15-10:30

第2回: 2020年3月14日(土) 9:15-10:30

**会場:** 森美術館展示室内

**対象:** 未就学児(0~6歳)とご家族、現在妊娠中の方とご家族

**定員:** 各回80組(要予約、先着順)

**料金:** 無料(ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です)

**お申し込み:** 森美術館ウェブサイト [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum)

※ベビーカーや抱っこひもで赤ちゃんと一緒に自由にご鑑賞ください。

※美術館スタッフが展示室内でいくつかの作品をご紹介します。

※10:00より一般のお客様も入館します。ご了承ください。

**プレスリリース** お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 津原、藤本、田ヶ谷、伊藤  
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: [mam-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:mam-pr@kyodo-pr.co.jp)



## ■ 耳でみるアート ※日本語のみ

視覚に障がいがある方を対象とした、スタッフとの対話を通して作品を楽しむツアーです。

本プログラムは見える、見えないにかかわらず、どなたでも参加いただけます。

**日時**：2020年3月14日(土) 11:00-13:00 **会場**：森美術館展示室内 **対象**：一般 **定員**：10名(要予約)

**料金**：無料(ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です。なお、障がい者手帳をご持参の方と介助者1名はチケットが不要[入館無料]です)

**お申し込み**：森美術館ウェブサイト [www.mori.art.museum/](http://www.mori.art.museum/) Tel: 03-6406-6101(月～金 11:00-17:00)

## ■ 手話ツアー ※日本語のみ

手話と言葉で展覧会を楽しむツアーです。手話をお使いにならない方も気軽にご参加ください。

**日時**：第1回：2020年2月28日(金) 19:00-20:00

第2回：2020年3月14日(土) 15:00-16:00

**会場**：森美術館展示室内 **対象**：一般 **定員**：10名(要予約)

**料金**：無料(ただし、当日有効の展覧会チケットが必要です。なお、障がい者手帳をご持参の方と介助者1名はチケットが不要[入館無料]です)

**お申し込み**：森美術館ウェブサイト [www.mori.art.museum/](http://www.mori.art.museum/) Fax: 03-6406-9351

## ■ とびだす学校ツアー ※日本語のみ

作品鑑賞を子どもたちや学生たちの学びに取り入れてみませんか? 授業などの一環として展覧会をご覧いただくツアーです。

希望日の4週間前までに以下へお問い合わせください。事前にご相談のうえ、日程や内容を決定します。

**対象**：保育園、幼稚園、小・中学校・高校、大学、専門学校

**人数**：1回50名まで(ギャラリートークの場合) ※それ以上の人数はガイダンスやレクチャー形式などでご相談に応じます。

**料金**：〔幼稚園、保育園、小学校、中学校〕プログラム費無料、入館料無料

〔高等学校〕プログラム費無料、入館料1人500円

〔大学、専門学校〕プログラム費無料、入館料1人1,000円

※引率者はいずれも無料

**お申し込み**：電話、FAXまたはメールにて、以下の項目をお知らせください。

・学校名、学年、人数、ご連絡先

・ご希望の来館日時(複数の候補日をお知らせください)

**注意事項**：

※会場混雑やスケジュール等の事情により、ご希望に沿えない場合もあります。ご了承ください。

※館内には昼食をとる場所はありません。

**プログラムに関するお問い合わせ**：森美術館 ラーニング担当

Tel:03-6406-6101(月～金:11:00-17:00) Fax: 03-6406-9351 E-mail: [mam-learning@mori.co.jp](mailto:mam-learning@mori.co.jp)

※出演者は予告なく変更になる場合があります。予めご了承ください。

※最新情報、お申し込みは、森美術館ウェブサイトへ：[www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum)

**プレスリリース** お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内)：津原、藤本、田ヶ谷、伊藤  
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: [mam-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:mam-pr@kyodo-pr.co.jp)

## 関連情報

### ■ 展覧会カタログ

#### 論考執筆者：

南條史生(森美術館館長)

五十嵐太郎(建築史家、東北大学教授)

久保田晃弘(多摩美術大学教授、アーティスト)

マリー=アンジュ・ブレイエ(ポンピドゥー・センター国立近代美術館 デザイン部門長)

オナー・ハーガー(アートサイエンス・ミュージアム館長、シンガポール)

ケイト・クロフォード(ニューヨーク大学 AI Now Institute ディレクター、特任教授)

**サイズ:** A4変形(28.2×21 cm) **ページ数:** 約360ページ **言語:** 日英バイリンガル **価格:** 未定

**制作・発行:** 森美術館/株式会社美術出版社 **発売日:** 2019年12月下旬予定

#### お問い合わせ: 森美術館ミュージアムショップ

Tel: 03-6406-6118 営業時間: 10:00-22:00(祝日を除く火曜日は17:00まで) ※美術館の開館時間に準ずる

### ■ 音声ガイド

本展の音声ガイドでは俳優の向井理さんがナビゲーターを務めます。

**ナビゲーター:** 向井 理

**ボーナストラック:** 本展共同企画者/森美術館館長 南條史生による特別解説

**ガイド件数:** 全14件(+ボーナストラック1件)

**解説時間:** 約30分 **料金:** 500円(税込)



#### 向井 理さんコメント

初めての音声ガイドの収録で、いつもは映像やBGMに合わせてナレーションをすることが多く、実物が無い中での収録はチャレンジングでした。気になった作品はたくさんありますが、「バイオ・アトリエ」(バイオ技術を使って制作したアート作品が集まるスペース)は大学の頃に勉強していた分野に似ているし、建築を見るのも好きなので、これからの建築がどうなっていくのか見てみたいです。体験型の作品や日々変化する作品もあるので、何回か来て違いを楽しむのも良いですね。

本展は、未来という大きな枠組みの中で立ち向かっていく人たちの話でもあると思います。普段生きていくなかで未来のことを深く考えることは少ないですし、音声ガイドを聞いていただいて、見るだけではわかりにくい作品や作り手の思い、人口増加や地球温暖化など作品の背景を含めて、より深く展示を楽しんでいただけたらと思います。

#### プロフィール

向井 理 (むかい・おさむ)

1982年2月7日生まれ、神奈川県出身。2006年にデビュー。

主なドラマ出演に連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」(2010年)、「S-最後の警官-」(2014年)、「永遠の0」(2015年)、「アキラとあきら」(2017年)、「きみが心に棲みついた」(2018年)、「わたし、定時で帰ります。」(2019年)など。主な出演映画に「僕たちは世界を変えることができない。」(2011年)、「新しい靴を買わなくちゃ」(2012年)、「きいろいゾウ」(2013年)、「小野寺の弟・小野寺の姉」(2014年)、「信長協奏曲」(2016年)、自身の祖母の手記を元に企画し、映像化した「いつまた、君と〜何日君再来〜」(2017年)など。

2020年には大河ドラマ「麒麟がくる」に出演する他、ディスカバリーの動画配信サービスDplayにて配信中のドキュメンタリー番組「コズミック・アドベンチャー」ではナビゲーターを務めている。ドラマ、映画、舞台、ナレーションなど幅広く活躍。

**プレスリリース** お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 津原、藤本、田ヶ谷、伊藤  
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

## ■ お得な割引情報

### 「ゴッホ割」

ゴッホが自分で切り落としたとされる左耳を現代のバイオ技術で再現した作品が展示される「未来と芸術展」と、上野の森美術館にて開催される「ゴッホ展」を、相互にお得に入館できる「ゴッホ割」を実施します。

**対象期間：**実施中～2020年1月13日(月・祝)

**割引内容：**@森美術館「未来と芸術展」

チケットカウンターにて上野の森美術館「ゴッホ展」のチケットをご提示いただくと、一般当日券が100円割引になります。

一般 1,800円→1,700円 ※学生、子供、シニアは対象外

@上野の森美術館「ゴッホ展」

会場チケットカウンターにて森美術館「未来と芸術展」のチケットをご提示いただくと、各種当日券が100円割引になります。

一般 1,800円→1,700円 | 大学・専門学校・高校生 1,600円→1,500円 | 中学・小学生 1,000円→900円

※チケットは未使用、使用済ともに有効です。

※本割引は、1回のご提示につき、1名様に限ります。

※他の割引との併用はできません。

### 「未来人優待」

未来を担う学生(高校・大学生)・子供(4歳—中学生)を対象とした特別割引「未来人優待」を実施します。学生は4名グループで1名無料、子供は3名で1名無料となり、本展をお得に楽しめます。

**対象期間：**2019年11月19日(火)～2020年3月29日(日)

※「未来と芸術展」開催期間中

**割引内容：**1名無料(入館料免除)

・学生(高校・大学生)4名の1グループにつき、

学生1人分の入館料[¥1,200]免除

・子供(4歳—中学生)3名の1グループにつき、

子供1人分の入館料[¥600]免除

(学生・子供が混合の場合、3名1グループにつき、子供1人分の入館料[¥600]免除)

※窓口で規定の人数が揃ったときのみ適用。

※他の割引との併用はできません。



「未来人」はグループがお得!

## 未来人優待

Special Discount for "Futurers"

### プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 津原、藤本、田ヶ谷、伊藤

Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp